寛ー加藤茜水　河合蒼竜窟ー中川掬水　巌流島ー小島　水　村上喜剣ー加藤友水　石童丸ー後藤甚水　城山ー中野片水　長良川ー水喜多錦廊・紘大越綾水　白虎隊ー会長樋口禁水舟弁慶ー東京高橋狸水。

東西名流　十月十八日(土)夕東京上野本琵琶演奏会　牧永、主催鈴木流泉氏。（次号詳報）

蘇水吟詠会　十月十八日(土)夕函館吟詠と琵琶発表会　市民会館小ホール、主催高橋蘇水氏。（次号詳報）

演奏会その他の予告

○…五洲会演奏会　十一月一日(土)夕六時東京上野本牧亭（五〇〇円）。白虎隊ー真泉洲香　接待ー荒川洲帆　横笛ー山田洲鳳　西郷隆盛ー前田洲月　潯陽江ー桑名洲聖　衣川ー来賓金子旭昭　伊豆の御難ー同宮原琿水　吹雪の敵ー松崎洲秡　松王丸ー平井洲誠。

○…錦心流一水会大阪支部秋季演奏会　十一月二日(日)十二時半大阪市立西区民センター一階ホール（西区北堀江御池通五ノ一‖地下鉄千日前線西長堀駅下車）。支部員十九名の外東京山口速水、京都木下皇水、神戸反町紫水、大阪伊勢谷安江各氏協賛出演。

○…京都三ッ和会演奏会　十一月三日(祝)正午京都東山松原安井金比羅宮会館。薩摩平井春嶺、筑前梅原旭濤、同矢吹旭美津三氏の門下生で組織する演奏会で上記三師の模範演奏も上演される。

○…ラヂオ琵琶放送　十一月七日(金)夜八時十五分NHK第一ラヂオ〝思い出の名人、水藤錦穣を偲ぶ〟対談五藤斉三氏。曲垣平九郎、耳なし芳一、白虎隊等を聴く。

○…小野鶴彦会演奏会　十一月九日(日)昼一時浜松市入野町西遠荘ホール。　京都平井春嶺、矢吹旭美津両氏ゲスト出演。

○…京都琵琶協会十一月定例茶話会　十一月十五日(土)午後一時会員平井春嶺氏宅。

○…第一回水藤五郎演奏会　十一月十九日(水)夕五時半東京渋谷東邦生命ホール。

○…ラヂオ琵琶放送　十一月二十日(木)夕五時NHK・FM。小督ー柴田旭堂、（琴伴奏）城山ー植村寞水両氏放送。

○…山崎旭萃リサイタル　十一月二十三日(日)昼一時大阪南海高島屋八階ホール。（一五〇〇円）「曲垣平九郎」「新日本音楽ヌクデウス」「琵吟組曲義経絵巻(1)舟弁慶、(2)安宅、(3)義経、(4)弁慶、(5)静」「茨木」「羽衣」「安宅」大合奏「千代の寿」以上発表。板谷旭邑、押川旭葉、菊地旭蘭、矢吹旭美津、林田旭城、久徳旭蘭、井坂旭良、渡島旭鶯、佐藤旭天紅、江本旭清、友田旭泉、水谷旭舟、木原旭邦、本田旭媛、丹生谷旭春、小野旭枝、奥村旭翠各氏（順不同）並に尺八星田、フルート岡、ハープ村島、日舞天津、琴奥村、以上諸氏助演。

○…浅野晴風会秋の大会　十一月三十日(日)十一時東京中野区中野文化センター。

○…岡部錦蝶米寿祝賀演奏会　十一月三十日正午大阪観科学技術センター。（別項参照）

あとがき

十月一日号本欄で〝ようやく爽やかな秋となり〟云々と書いたが締切後になっても仲々残暑は去らず、お手許に届いても秋は未だ来ないと云う異状気候で些か申訳ないようで面はゆい気持ちである●しかし十月から十一月にかけて琵琶界は全国各地で極めて活発な動きを見せつゝあるのは誠に結構な現象で、兎もすれば悲観的な観測をされている琵琶楽もいまだ老いずの感を深くする●この調子で十二月号も正月号も是等の記事を満載することが出来るよう期待してやまぬ●開かれた演奏会や集会の模様や企画されている諸種催し物の予報など精々詳細にお知らせ下さって同好者たちを喜こばせて貰いたい。

昭和五十年十一月一日発行（非売品）
編集者　植村寞水
発行所　京絃社
〒569　高槻市津之江北町一一ノ二三
電話〇七二六（八五）六〇五一番

琵琶機関紙　京絃　第二五七号　京絃社

我が道を行く六十五年（三一）

西郷天風

琵琶会の会員券売込に学校の教員室を訪ねたのは此時が始めてで、そんな考えをもつに至った動機と云えば、旅先の催しである上に地元の人達による三曲合奏が加わるとなると、吾々二人だけの安易さでは済まされぬ、義務もあれば責任も重い、何がなんでも盛会を期さねばと大いに張切った訳だが、結果は甚だ期待薄だった。結局小使室に会員券二百枚程を頼み、他に運動場の掲示板に宣伝ポスター貼付を許されたのがぎりぎりの線だった。亦女学校の方は三曲合奏を提案された有志の紹介で校長夫人を訪ね、中学校と同数の会員券を委託して、あとは賛助員である市の有志達へ五枚宛の会員券を郵送する等、総て私一人の忙がしい仕事だった。

ところが茲に思いもかけぬ支障が勃発した、しかもそれが演奏会の前日に当り、その事が会の運営を左右する重大事であるなぞとは夢想だにしなかった。当時世界の五大強国に列する我日本の陸軍大演習は国を挙げての大行事で、その最終日には大元帥陛下御親閲の下に、攻防両軍の主力が最后の衝突を展開する、その決戦場が前橋市近郊の平野に決定し、その御野立所を遙かに望む地点に大天幕を張りめぐらし、関係各県下朝野名士の為の拝観所が設けられ、私も市長の招待で菊花の大記章を胸に、陸続と参集する名士等と拝観の栄を共にしたのは、生れて初めてのことで大いに気をよくしたのはよかったが、翌日の琵琶会に賛助員である筈の名士達は一人も顔を見せず、実に前例のない大失敗を喫した次第だが、殊に意外の感にうたれたのは学生の姿が一人も見えなかった事である。それ迄琵琶会といえば客席の大半は学生によって占められるものときまっていた、処が此地では男女とも学生は一人も見当らない。

中学生達の言によれば、琵琶の如き旧式の芸能は関心をもつだけでも恥かしいと云うので、二・三人だけは和服に着替えて入場する始末だったと。亦女学校では、三味線を不浄の楽器ときめつけ、学校当時者が学生にすゝめるなど飛んでもないことだ、と校長の苦言だった。それに対し、ピアノも外国では三味線と同じ様なものと聞きますが、と反問して校長をへこませるなど今思えば若気の至りだった。

兎に角この大失敗は私達二人の宿泊料の支払不能となって現れた、しかし旅館の主人は一等客扱いを少しも変えず、関せずえん。をきめこんでおる。

そこで吟風氏は考えた、そこから程近い結城町の殿様御夫妻は、尺八と琴の合奏が御得意でよく演奏会を催され、吟風氏も度々賛助出演に応じた関係にあるので、此際吾々と合同の会を催しこの急場を切りぬける相談を試みようと、結城町さして出発した。処がこの事を知った旅館の主人は血相を変えて私に迫り、〝先づめくらを通しておいて次にあなたも逃げる積りだろう〟と云う、そこで事情を説明すれど中々納得せず、速刻連れ戻して来るとて、家人には私の禁足を命じて吟風氏の跡を追って行く、彼は私共を引止めておいて一日でも多く宿泊料を稼ぐ魂胆なのである。市長初め市の名士が後援とあるところに彼の狙いがあるらしかったが、その態度に腹を据えかねた私は一計を案じた。先づ女中に命じて賛助の一員である警察署長官舎に電話で面会を申込めば、速刻なら面談可能とのことに早速禁足を破ることになったが、行先が警察署長官舎とあっては、主人不在の家人も反対を

押きれず、女中一人尾行しては見たものゝ、門内えは遠慮するしかなかった。私は金策の為め水戸の近辺南中郷駅前の縁者を訪ねる次第を詳細に話せば、警察署長の立場で逃げる者の荷担はできぬと云う、そこで、賛助員と云う一個人の立場で私の行方を知っていて貰うこととし、門前に出て見れば女中の姿はない、之幸いとばかり人力車を拾って前橋駅に直行、予定の行程を南中郷に至れば、目指す縁家の主人は旅行に出た直後で不在、止むなく当分厄介になることにした。

やがてその年も暮が迫った頃、二人分の宿泊料を手にして前橋に戻り、取りあえず別の旅館に投宿し、女中に頼んで先方の女中を呼び出し其后の様子を尋ぬれば、吟風氏は一人分を支払って既に宇都宮に帰り、主人も今は静かに待っておるとのことに、三週間ぶりで元の座敷に一泊、以前とは打って変った主人は其后の経過を面白く物語るのであった。

〃結城町では、宿につくや直ちに電話で吟風氏の所在をつき止め、有無をいわせず連れ戻って見れば肝心のあなたは不在、警察署長官舎から行方不明となったのでは手の打ち様もなく気永に待つことにした〃と。

観念した彼は、吟風氏に協力して前橋の盲学校に琵琶演奏の慰問を行ない、その報酬を一人分の宿料に当て精算し宇都宮へ送り届けたと、至って和やかな解決を見たのは数十年後の今日、その思い出も懐かしい。この一連の話は、現在正紘会の池野谷吟岫氏が宇都宮在住時代師の吟風氏から聞いておるであろう。

私の音楽ノート（九）

水藤五郎

〃西からの文〃　〃東からの返〃

今年は例年になく九月の残暑が厳しくそして長く、夏とは云えぬ迄も秋も既に中頃と云うのに、それらしからぬ日々の気候であります。しかし、秋はやはり芸術のシーズンで、各地からの演奏会の便りや芸術活動のニュース等に接し、東北、北陸、九州の秋を肌に感じる日々であります。

この様なシーズンより先立った、と云うよりは全くかけ離れた七月の末、神戸の柴田旭堂師より一通の御文と御案内を頂きました。人形劇団「クラルテ」の公演〃出世景清〃の上演がそれでありました。劇の伴奏として琵琶が用いられ、その作曲と演奏に柴田旭堂師があたり、助援に竹本旭将師があたっているとの添書がありました。折り良く時間があり、七月二十六日の夜、会場の六本木俳優座劇場に出かけました。

上演二時間三十分の人形劇で、テーマが平家物語中の景清、この二つの要素を考えると、決して観客動員の容易なものとは思えぬ点がありましたが、現実には極めて盛況で若い人々が全てであり、人形の持つ魅力に今更ながら驚いたのであります。

然しよく考えてみると、テレビの動画NHKの里見八見伝等に見る人気は、人間が演じるものとは違った感動を、多くの少年少女に与えている様であります。人間が演じる劇中人物、それを人形が演じる、その芸術方法自体は決して新らしいものではなく、寧ろ古い伝承方法であります。その代表は人形浄瑠璃であります。この完成された芸能は、人間則ち役者が演じる以上に人々の感情を表現して見せるのであります。この凄まじいばかりの感情表現が、決して人形の力のみに依るのでなく、あの義太夫という伴奏音楽があって始めて成り立つことも事実であります。

文楽はこの二つに依って成り立って来ました。この近世、則ち江戸時代の人形劇が生れる以前に、「能」という芸能があるのを私共は忘れることが出来ません。あの「能面」は人形とはその様相を異にし乍らも、人形出現の前提ともなっているのであります。動くことのない能面には全ての表情を超越した、ある一面を刻んだものであり、その中に全ての表情を読み取ろうとするものであります。

この内在的な思考から、眉一つの動きにも感情表現の限りをつくす外発的な文楽が生まれ、あの能楽から、変化に満ちた人間臭い義太夫への変化を示したのであります。この様に謡曲も義太夫も、一つの舞台空間を前提としてその場を持しています。この歴史的系譜に立って見る時、今日の人形或いはアニメーションに依る劇はどうでしょうか。テレビの動画についてみる時、新しい面を私達は感じることが出来ます。則ちスピード感であります。劇の進行、登場人物の動きが、全くスピーディであるということであります。

私達はどんなに急いでも、百米の道を十秒で走り一分で歩くのであり、一秒間に手を五回しか叩けないのであります。この動きの限界を全く打破って走り、飛び、動き廻るのであります。一般のドラマで、フィルムの回転操作に依って人の動きを早めて、ドラマの話題進行を早める手段が使われます。然しこの手法が非常にユーモラスな感覚を、見る人に与えてしまうのが常であります。メロドラマにこの手法は使えません。ところが、アニメーションにはこれは無いのであります。このスピード感が子供には人気があるのです。子供は動きが早く、大人以上にテンポの早さを求めているのであります。

これは過去の人形芝居、特に歌舞伎、能等の伝承芸能を要素としている場合には無いものでありました。能面の無表情から文楽の多表情と云う変化は確かにありました、然しそれは上半身についてのもので、今日の動画はからだ全体のスピーディな動きを表わしたのです。この意味に於てクラルテの人形の動きは、極めて素晴らしいものでありました。特に景清と源氏の武士共の戦う場面は極めてスピーディで、今日の感覚にあてはめた人形芝居でありました。このリアルな動きに多くの人々が感動した様でした。人形が高く飛ばされ、そして人形が走り廻る、これは「近松人形芝居・出世景清」と云う古典的タイトルとは、全く異なった新鮮な感覚を与えたのであります。

このクラルテの人形劇の伴奏が過去の義太夫でなく、平家の琵琶法師に関連させて、琵琶を通しで使用したのはうなづける試みでありました。作曲者が関西筑前琵琶の第一人者柴田師であることから、当然この計画は妥当なものと思われました。私は客席にあって、若し義太夫ならば・・・という比較感を持って、注意深く且つ興味に溢れて琵琶の伴奏に聴入りました。多くの人々は琵琶の演奏に接し、その技法の高さに感動したことと思います。

ただ私が恐れた二つの面について、私は一つの感概を持って聴き終りました。琵琶が能や義太夫のように、歴史的に舞台空間を持ったことのない芸能であること、そしてこのクラルテの持つスピード性を伴奏音楽が支え、助力、合一出来得るかどうか、つまり今日の琵琶にスピード感があるかどうかという、二つの命題でありました。この二面を克服しない限り、クラルテの人形芝居に伴奏音楽として琵琶を位置づけることは出来ないでしょう。今後の少年少女に迎えて貰うに足る音楽にはならないのですから、この意味から柴田先生の御努力と御奮闘を期待しておきます。

（予　告）

岡部錦蝶米寿祝賀

琵琶演奏大会

時　昭和五十年十一月三十日(日)正午開演

所　大阪科学技術センター八階大ホール

大阪市西区靱(うつぼ)一の一一八

（大阪西梅田駅から地下鉄本町下車　靱公園東入口）

主催　岡部錦蝶親族一同

後援　琵琶諸団体

来聴歓迎

プログラム（順不同）

ナレーター　山之内兼光

開会の辞ー山之内兼光　門琵琶合奏ー有志、吉野落(初)ー平井春嶺　細川ガラシャ夫人ー島津天嶺　城山ー岡部精之・要一　源実頼公ー小野鶴彦　曲垣平九郎ー山崎旭萍　月照ー有馬南城　弁の内侍ー伊勢谷安江　乃木静子夫人ー佐々木精　吉野落(二)ー岡部錦蝶　挨拶ー岡部栄夫　献華　記念品贈呈ー日本芸能顕彰会　戦艦大和ー栗原雨竹　菊水の旗ー三浦蓮水　旅順口ー小畑鶴峰　小督ー植村寞水　鶴ケ岡ー柴田旭堂　雪晴れー野尻摂水　弾法ー辻靖剛　曽我兄弟ー広瀬緻水　白虎隊ー仲川秀邦　坂崎出羽守ー東憲水　本能寺ー岡部錦蝶　蓬莱山（一句謡廻し）ー有志　閉会の辞ー平井春嶺

・前号予告の会場は右記に変更

狂醉亭漫録（百十七）

龍宝山大徳寺（下）

古谷竟水

聚光院には利休の墓と称するものが存し賽者が絶えず、総見院は明治維新後一時廃絶したが、今復興さる。信長の墓は九輪の石塔で、高さ五尺六寸餘。龍翔寺はもと十刹の一であったが、維新後天瑞院の址に復興せられ、院中に秀吉の母の墓がある。孤蓬庵の方丈及び忘筌、山雲の二茶室はともに国宝である。玉林院には片桐且元の墓を存し、龍光院の本堂、書院、磐桓廊、兜門は共に特別保護建造物に指定され、三玄院は石田三成等の施財によって成り、院内に三成の墓がある。この外、塔頭には古来の著名な人々の墳墓が多い。寺宝に国宝牧溪筆観音猿鶴図、唐画五百羅漢図、後醍醐天皇の宸翰、同天皇大燈国師問答書を始め、名什逸品が頗る多く、塔頭にも国宝を蔵することが甚だ多い。なお勅使門、三門、浴室、仏殿、経蔵、法堂、日暮門、方丈、大庫裡、寝堂はいづれも国宝で、寺全体が禅院の好摸範とされている。

〔大徳寺の絵画〕大燈国師像は絹本着色で、建武元年の自賛あり、大和絵風の頗る写実的な肖像画で、項相中の名品である。後醍醐天皇御像は絹本著色で、御在世中の真影といわれる。楊柳観音図は、我国に存する同種図絵中の第一品と云われ、宋元の間に中国で製作されたものであろう。観音猿鶴図は牧溪の真筆で、絹本墨画、落款あり、牧溪の確証ある作である。その運筆の妙は蓋し東洋絵画の粋を極め、神品中の神品である。この外、大徳寺には多数の国宝絵画類がある。

〔大徳寺の建築〕（一）勅使門、屋根切妻造、桧皮葺の四脚唐門で、天正十八年に造営された皇居の南門であったのを、寛永十七年に当寺に賜ったもの。（二）三門、大永六年に連歌師宗長が下層だけを建てたのを、天正十七年に千利休が修造したもの。五間三戸、左右に山廊あり、上層の斗拱は三手先結組、軒は扇垂、下層は出組、外部丹塗、内部彩色、楼上に釈迦、十六羅漢を安置し、中間の天井の丸龍は長谷川等伯の筆である。現存最古の唐様三門である。（三）仏殿、五間四面、重層、屋根入母屋造、本瓦葺、唐様の手法を用い、寛文五年の再建である。（四）法堂、桁行七間、梁間六間、重層、屋根入母屋造、本瓦葺、典型的な唐様法堂建築である。寛永十三年稲葉正則の再建。内部は瓦敷で、正面に仏壇あり、天井の丸龍は狩野探幽の筆。（五）庫裡、寛永十三年方丈を新造した時、その故材を以て庫裡を造ったという。桁行左側八間、右側十一間、梁間前方九間後方六間、単層。（六）方丈、廊を以て庫裡に続く。寛永十三年、後藤益勝の建立。単層、屋根入母屋造、桟瓦葺。もとは桧皮葺であった。前面と一方の側面とに広縁及び落縁を設け、内外の仕切には桟唐戸、舞良戸、明障子を立て、襖は探幽の四季山水の墨絵である。方丈に附属して寝堂、待真寮、玄関、唐門等がある。唐門は桃山時代の建築で四脚門、屋根切妻造。随所に桃山式の華美な装飾技術を発揮している。（七）浴室、三門の東にあり、元和八年灰屋紹由の建つるところ。（八）経蔵、慶長十四年益田元祥の建立。

以上大徳寺本山の外、塔頭の真珠庵、大仙院、龍光院、孤蓬庵、黄梅院等にも夫々名建築が存するが今回は紙数の都合上省略する。

中尊寺金色堂と毛越寺
藤原三代の栄華を

辻旭城

岩手県平泉の中尊寺へは、東北本線平泉駅で下車して県南バスで約五分、こゝから徒歩二十五分余、国宝の金色堂や経堂などがあり、その他国宝、重要文化財等も多く保存されている。附近に毛越寺跡、無量光院跡、高舘（衣川）跡、厳美渓などがある。

五月雨の降りのこしてや光堂、〝奥の細道〟の中のこの一句は、中尊寺・金色堂の名を一段と高く評価している。

俳聖芭蕉が、江戸の深川からみちのくへ旅

立ったのが元禄二年（一六八九）の春だった。一竿の筆と一冊の帖を頼りに、奥の細道を辿りながら平泉に着いたのが旧五月十三日、杉の巨木が空を覆う月見坂の参道を登ってゆくと東物見へ出る。こゝの展望台から眺めると、眼下に衣川と北上川の合流点が望まれ、その向うに束稲（たばしね）山がおだやかな起伏を見せている。

ききもせずたばしね山の桜花、吉野の外にかゝるべしとは―。西行法師の歌集〝山家集〟の中の一首だが、西行法師は桜の名所大和吉野の山奥に草庵を結んで、三年間ものあいだ吉野の桜に親しみ暮していたことがある。西行には桜を読んだ歌が沢山残されている〝ききもせず…の歌は、西行が平泉、束稲山の桜に深い感慨と感情をこめて歌ったのであろう。

芭蕉の旅は、西行法師の旅の足跡に重って同じようなところが多い。芭蕉の心を奥の細道へと駆りたてた心理的な契機には、西行法師の数々の陸奥での歌枕に誘われたのではなかろうかと考えられる。

中尊寺金色堂とともに平泉の名所で欠かせないのは毛越寺であろう。二代藤原基衡が建立に着手、三代秀衡の手で完成を見た大寺院だったが、今建物は総て失われ、曾ての壮麗な建造物を思わせる礎石が残っているのみである。そして藤原三代の文化を匂わす大泉池と、石組の浄土式庭園が僅かにその昔を彷彿とさせてくれる。

五紘琵琶〝衣川〟から一部を引用すると、

〝義経はこのひまに、妻子の最期を見届けつ、三十二才を一期として、遂に御生害あらせ給う…夏草やつわもの共が夢の跡、今も昔の跡訪へば…〟旧暦五月十三日は、この辺りは夏草に覆われていたのであろう。つわものの共とは藤原三代の清衡、基衡、秀衡や源義経のことを云ったのであろう。夏草ばかりが残る景観は、ふる里を遠く離れて筆一竿に身を托し、世俗を捨てゝ旅の人となろうとした俳聖芭蕉の心にも、ものゝ哀れを駆りたてたのではあるまいか。

毛越寺庭園の一隅に〝夏草や…〟の句碑が建っている。字が風化して読みづらくなっているが、芭蕉の真筆だと伝えられている。

琵琶に関係のある昔の人の跡を辿るのは、矢張りバスや車では駄目で自分の足で歩かなくてはいけない。それも道というような道のない草深い古戦場跡や旧蹟等出来るだけ探して歩くことである。筆者もよい齢になったが、京紘愛読の諸先生方も、まだまだ隠れた歴史が残されているので、共に探究したいと思う。

滝原流石

老いらくや紅茶きのこの醸す味
夕鴉ひと声秋の狭霧生む
溝萩は除らずに参る母の墓
御手洗の水澄む秋の奥の院
駒とめて聞くや琴の音嵯峨の月

戻り橋

高取正男

あの世との接点として青森県の恐山は有名だが、京都の戻橋も昔はそうだった。京都一条通堀川にかゝっている戻橋も、魂のターミナルのひとつである。平安の昔、文章博士の三善清行の葬列がこの橋を通ったとき、子の浄蔵の祈りにこたえて一時生きかえり、最後の別れをしたという。

源頼光の四天王の一人渡辺綱が、この橋の上で鬼女に出会った話は有名である。かって粟田口の刑場にひかれる罪人は、この橋に立ち寄って花とモチを供えられ、今度人間に生まれかわるときは真人間になれと云われた。

こうした話は、いづれもこの橋が並みの場所ではなかったことを示している。この世とあの世の間にかけられた橋という意味を備え、清行の霊魂がUターンしたことから戻橋の名がついたと云うが、確実なことはわからない。ただ、この名にちなんで、戦争中は出征兵士がこの橋を渡って出発すると、無事に帰還できるといわれた。現在でも、縁起を担ぐ人もあると聞いている。

この橋は、神社や寺院でなくて、しかも霊験のあるような、そうした各地にある聖域のひとつとだけは云えるだろう。

堺市開口神社の諸芸大会　祭り嘶、若衆が打つ太鼓の音に秋を彩どる九月十二日㈮午後首記が催され大阪琵琶同好会の奉仕で盛大に行われた。楠公菊水の旗｜恵坂星聖　花の白虎隊｜作花旭秋　本能寺｜辻旭城　小栗栖｜石橋旭嶺　神崎与五郎｜光旭仙　若き敦盛｜尾山旭瑞常　特出開口神社を偲ぶ。外に詩吟舞、日舞、民謡、浪曲、尺八、奇術等数番で賑った。

武絃会。一水会多摩支部合同研修会　九月十四日㈰一時　小金井市福祉会館。戦艦大和｜伊藤磐水　茨木｜中村修水　山科の別れ｜篠宮擾水　石童丸｜落合白水　掛合羽衣｜中島瀑水・石井效水　城山｜清水源城　異国の丘｜杉山旗水　別れの盃｜小川吐水　竜の口｜松田殊水　旅の芭蕉｜伊集院皷城　滝口入道｜坂本錦道。尚今般坂本錦道氏に対し琵琶界功労者として日本芸能顕彰会から功労楯が贈られ当日その贈呈式が行われた。

晴風会　九月十五日(休)夕六時｜九時　九月例会　東京杉並区高円寺会館。月下の陣｜会長浅野晴風　紅葉狩｜岩崎　吉野の奥｜菅野　重衡｜近田青邦　屋島の誉｜諸遊青記代　川中島｜本橋錦颯　夢｜坂入晴峰　城山の月｜野田峻水　羅生門(下)｜福島脹水　大原御幸｜高田瑩水　仁科信盛｜青木晴城　秋海棠｜大関英子　本能寺｜加藤錦陽　石童丸｜杉山旗水　天目山｜山下晴楓。

九月公開研究会　九月二十日㈯夕六　都錦穂師を聴く夕べ　時東京文京区根津会館、主催若手琵琶人の会（三〇〇円）。扇の前｜梅原旭濤　常陸丸｜馬場鴨水　青葉の笛的｜高久穂芳　茨木・大原御幸｜都錦穂　芸談あれこれ｜錦穂及同人会員。

日本芸術琵琶柏会　九月例会　九月二十一日㈰昼一時　東京西新宿柏ビル六階。弾法｜山崎錦幽　大原御幸｜高田瑩水　石童丸｜石田脩水　仁科信盛｜青木晴城　乃木将軍｜錦幽　千曲川｜杉山旗水　三十三間堂柳の由来｜若宮旭登　掛合勧進帳｜脩水・長谷川錦舟。以上研修小宴の後七時散会。

岳水会の研究会　九月二十一日㈰一時半北海道主催。東京鈴木流泉氏を講師に迎え琵琶楽器の柱付、サエ、サワリ、保存法等の実地講習並に破損楽器の修理等。受講者二十八人。

各流派琵琶合同秋季演奏大会　九月二十一日㈰正午京都府立文化芸術会館三階ホール、主催京都琵琶協会。残暑厳しい中を開会前から既に二十余人の聴客が詰めかけ程なく超満員となり係員は二回も三回もどうぞお詰め合せを…と合場整理に汗だくで着席出来ない十数人の聴客は廊下に立って伝統芸能の妙味に陶酔していた。六時前全演奏を終り記念撮影の後盛会裡に閉幕。門琵琶合奏｜矢吹・平井　湖水渡｜田中鵬水　本能寺｜阪本一峰　井伊大老｜荒木旭媛　小栗栖｜木下皇水　綱舘｜戸田旭公　城山｜牧南水　仏御前｜梅原旭濤　常陸丸｜馬場鴨水　青葉の笛｜矢吹旭美津　寂光院｜平井春嶺　乃木将軍｜古谷竟水　横笛｜植村寞水　（以下来賓）竜の口｜名古屋長谷川旭鶴　雪晴れ｜同三輪花水　鴨川の露｜同石河旭豊穣・紘松本旭柳　西郷隆盛｜東京前田秋声の四氏。

筑前琵琶橘会　九月二十四日(休)朝十時岡　全国演奏大会　崎市勤労会館、主催日本橘会、司会中部橘会、後援岡崎市教育委員会其他（五〇〇円）。第一部＝別れの盃｜清水・前田　那須与市｜奥村　加藤清正｜菅沼・前田　本能寺｜三浦・三浦　伽羅の兜｜島田　井伊大老｜射手矢・松居・加藤・岩崎　禅師と正宗｜谷本　関ケ原｜樋口・堀川　青葉の笛｜稲本・伊佐地　粟津ケ原｜坪内・大野　大楠公｜佐藤　竜の口｜三栖　戦艦大和｜田子北の庄｜松村　隅田川｜北村　曲垣平九郎｜友田　羅生門｜小野　第二部＝鴨川の露｜島田・島田　吉野落｜村上　西郷隆盛｜金子・城戸　加藤清正｜木村　衣川｜丸山　曲垣平九郎｜寺尾　小栗栖｜押川　粟津ケ原｜林田別れの盃｜矢吹・久徳　茨木｜山本旭錦　壇の浦悲曲｜山崎旭萃　特別番組＝秘曲重衡｜長谷川・石河・松本・琴皷笛入　安宅｜清水・吉田・堀田　茶絃録｜堀田外九人・琴小川・点前裏千家社中。六時終演。尚前日の二十三日には総会及懇親会が開かれた。

邦楽木犀会第一回演奏会　九月二十七日㈯昼夜東京　日本橋第一証券ホール（昼夜各八〇〇円）。昼の部＝六段の調｜琵琶水藤五郎の外箏二、三弦、阮咸、一弦琴、尺八各一　一弦琴刈藻の曲｜新倉涼子　錦琵琶耳なし芳一｜水藤五郎　箏曲手琴｜砂崎知子　平家琵琶敦盛最期｜橋本敏江　箏と十七弦の為の三重奏曲｜箏二、十七弦一　夜の部＝雅楽管弦越天楽｜琵琶多忠完の外笙、篳篥、竜笛、鞨皷、太皷、鉦皷各一、復元楽器として日本雅楽会の笙篠、阮咸、方響、笙付　平家琵琶訪月（つきみ）｜橋本敏江　箏曲赤壁の賦｜箏二、替手一、尺八一　中国古箏春江花月夜（唐代古曲）｜新倉涼子　錦琵琶五位鷺｜水藤五郎・十七弦和田祐子　箏曲三つの断章｜砂崎和子　薩摩琵琶城山｜普門義則。珍しい企画で昼は八分の入り、夜は満員の盛況を呈し、各楽器の説明なども行われた。（本紙九月号参照）

日米交換　在米国峰流尚道会　琵琶吟詠剣詩舞大会　の来日を迎え赤心流鶴翁氏主催の首記が九月二十七日㈯朝十時静岡県婦人会館で開催され菅公｜小野鶴彦、静｜小川野水、吉野懐古｜岡尾鶴城の琵琶三曲の外会員及び訪日団の吟詠等百余題が公開され鶴翁会長は「敦盛塚」を披露盛況裡に終始した。

三位研修同志会　九月二十八日㈰昼三鷹　第二十三回例会　市上連雀公会堂。桶狭間｜伊藤友彦　潯陽江(上)｜八束一峰、時頼遍歴抄｜伊集院皷城　滝口入道｜坂本錦道　彰義隊｜西村暑峻　御夢の跡｜軽部岳瑞　戦艦大和｜伊藤磐水　城山｜清水源城　詩吟｜田戸桜丸　王昭君｜鈴木鶴岡。以上演奏後懇談会に移り閉会。尚十月は二十六日（日）同所に於て開催の予定。

杉山馨水琵琶演奏会　九月二十八日㈰昼国分寺市　立本多公民館。木村重成｜小山田賞水　道成寺｜秋山錦賜　巌流島｜中村錦道　城山｜須釜馨峰　白虎隊｜川崎淑水　石童丸｜石井效水　茨木｜中村修水　湖水乗切｜寺山注水　川中島｜橋本草水　伊豆の御難｜北沢来水　本能寺｜押谷君水　雪の進軍｜榎本山水　井伊大老・竜の口｜杉山馨水。

創立十五周年記念秋季演奏大会　十月五日㈰朝十時半　東京銀座交詢社ホール、主催薩摩琵琶正絃会。相憎くの風雨荒天列車不通のため二、三欠演者あり聴衆も予想外に少なかったのは残念であった。須田の一と撓｜関口竜城　花の白虎隊｜岩崎吟照　月華｜大越雅舟　七郷落｜本橋汕舟　迷語もどき｜吉田央舟　重衡｜大旗湖舟　川中島｜青沼紅舟　石童丸｜正本溪舟　武蔵野｜小村鉾舟　小松の操(一)｜堀越素舟　同(二)｜伊集院牙城　春日野｜清川嵐舟　細川ガラシャ夫人｜山本嶺舟　菅公｜城月舟　王昭君｜鈴木鶴岡　彰義隊｜浜野錦宝　城山｜仲川秀邦　鉢の木｜遠藤鶴東　桶狭間｜池野谷吟岫　水兵の母｜柏木篁道　花紅葉｜鈴木鶴謳　旅順開城(上)｜大塚岳峻　其日の東郷大将｜栗原雨竹　時は今也｜平井春嶺　乞食瓢六｜最上穂洲　潯陽江(上)｜八束一峰　同(下)｜古家紘風　弁の内侍｜岡部錦蝶　楊貴妃｜田中旭嶺　吉野落(一)｜須田誠舟　同(二)｜安田幸吉。

近県親善錦心流琵琶演奏会　昭和三十八年以来毎年　新潟、山形、秋田三県親善演奏会を開催し本年は一水会秋田支部が主催で十月六日㈪昼秋田市協働社大町ビルホールで開催、盛会であった。本能寺｜佐山錬水　粟津の巴｜佐々木笑水　三成の最期｜船木濤水　河内の宿｜高井新水　一寸法師｜酒田渕上由美子　吉野山｜新関頌水　竜の口｜竹内信水　西郷隆盛｜渡辺禎水　白虎隊｜星野蓬水　山科の別れ｜石川仙水　乃木大将｜鈴木岳亮　修養の楽園｜鶴岡本間黄水　掛合羽衣｜酒田土田宴水・中里千水　毒饅頭｜新潟山崎溪水　石童丸｜熱海梧水　秋は逝く｜松井灯水

秋の琵琶大演奏会　十月十二日㈰昼新潟市三条会　館ホール、一水会新潟支部、新潟琵琶協会共催、司会伊藤啓水。紅葉狩｜小出梯水　竜の口｜相田豊水　棄児｜菅野暁水　景清(上)｜内山舟水　黒塚の鬼｜富岡葦水　俊